水稲の生育状況と今後の管理対策（第３号）

令和２年６月 19 日
新潟県農林水産部

〔６月 18 日現在の生育状況〕

コシヒカリ

◎　指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや濃い」状況で、生育は２～３日程度早い状況です。

新　之　助

◎　指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや濃い」状況です。

（参考）こしいぶき、ゆきん子舞、つきあかり

○　長岡市に設置した調査ほ場では、いずれも茎数や葉色は指標値並以上の生育となっています。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

◎　６月 18 日発表の１か月予報（６月 20 日から７月 19 日まで）によると、平均気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込みです。

◎　このため、水稲の生育は平年より進んだ状況が続き、コシヒカリでは過剰生育が懸念されます。また、５月連休植えの早生品種では６月中に幼穂形成期を迎えることが予想されます。

〔管理対策のポイント〕　★は重要ポイント

早 生 品 種

★　中干（なかぼ）し[*1]の終了時期は、遅くとも出穂の１か月前をめどとします。中干し終了後は、浅水の間断かん水[*2]を実施し、徐々に飽水管理[*3]に移行してください。

★　つきあかり、ゆきん子舞の多収栽培では、籾数の確保が重要です。穂肥[*4]施用の時期と量を地域の農業普及指導センターや JA 等からの技術情報で確認し、１回目の穂肥を遅れずに施用してください。

・　病害虫発生予察情報に注意し、葉いもちの発生を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行ってください。

・　カメムシによる斑点米の発生を防止するため、イネ科雑草が実をつけないよう、ほ場内外の除草を計画的に行ってください。

コシヒカリ

★　これまでの高温気象の影響で指標値を超える生育になっていることから、籾数過剰や倒伏を防止するため、中干し・溝切りを徹底し、過剰な生育を抑えてください。

・　乾かし過ぎて大きなヒビが入ると根を傷めるので、田面の状態に注意し、大きなヒビにならないよう走り水かん水を行ってください。

・　停滞水の排水やフェーン等の異常高温時に速やかなかん水が行えるよう、溝の手直し、タテ溝とヨコ溝の連結、水口と水尻とのつなぎを確認してください。

新　之　助

★　５月下旬に田植えをしたほ場でも、速やかに中干しを開始してください。

★　いもち病抵抗性は強くありません。また、全量基肥施肥[*5]では６月末頃に葉色がやや濃くなるので、病害虫発生予察情報に注意し、葉いもちの発生を確認した場合は、薬剤防除を徹底してください。

・　中干しの効果を高め、根の健全化やほ場の地耐力の向上を図り、フェーン等の緊急時に速やかなかん水が行えるよう、溝切りを確実に実施してください。

熱中症予防

★　農作業は気温の高い時間帯を避け、作業時は飲料水や日陰を十分に確保するなど、事前の熱中症対策を進め、健康管理に十分注意してください。

*1 中干し：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと
*2 間断かん水： たん水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す水管理方法
*3 飽水管理：土壌を湿潤状態に保つこと
*4 穂肥：穂が出る前に追肥すること
*5 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前又は田植え時に一括して施す施肥法

◎　今後の管理対策発信予定日
７月１日・９日・21 日・28 日・31 日、８月 21 日、９月 11 日

〔補足資料〕

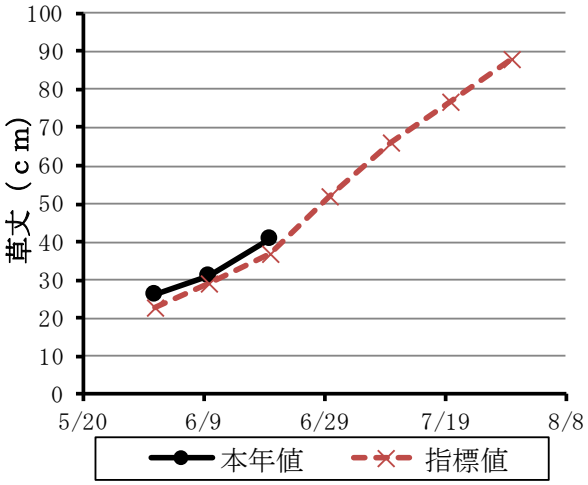
1　農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（６月 18 日現在）

コシヒカリ

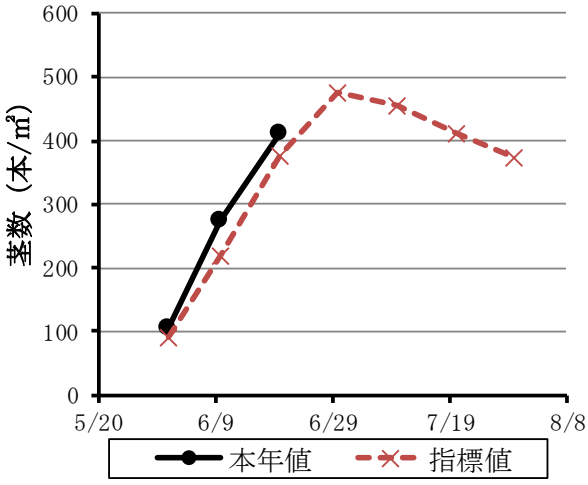
○　指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや濃い」状況です。

項目	本年値	指標値（県平均）	指標値との比較	指標値比・差
草丈	41 cm	37 cm	長い	111%
茎数	411 本/㎡	378 本/㎡	やや多い	109%
葉数	9.0 葉	8.5 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色（SPAD 値）	40.5	38.9	やや濃い	+1.6

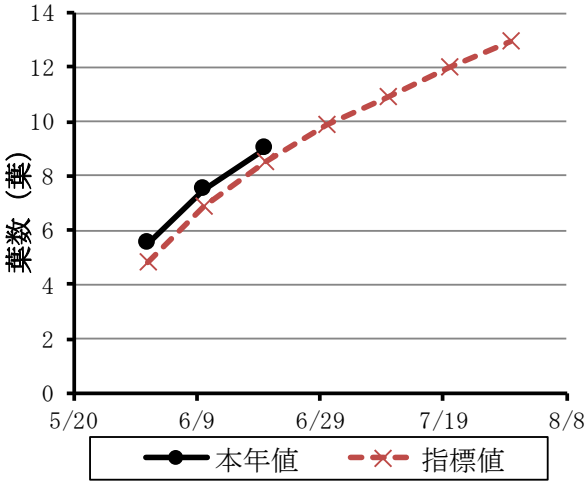
注）県内全域の 117 生育調査ほデータの平均値（田植え５月 10 日、栽植密度 16.9 株/㎡）



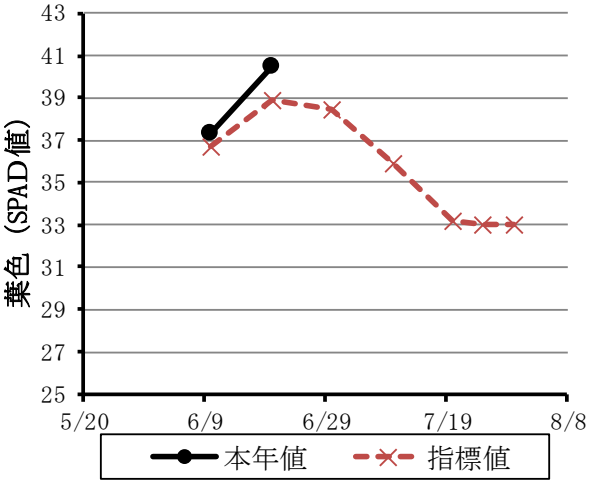
草丈の推移
（県全体）



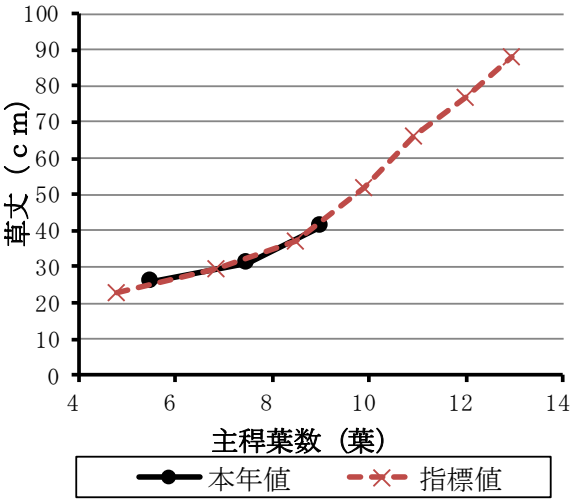
茎数の推移
（県全体）



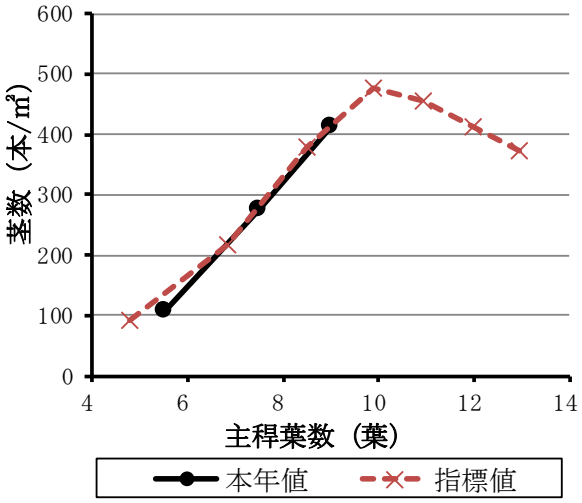
葉数の推移
（県全体）



葉色の推移
（県全体）

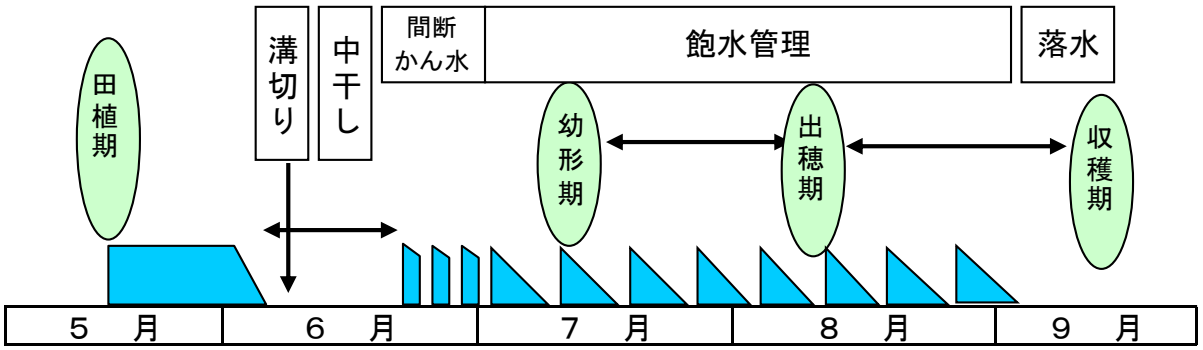


葉数と草丈
（県全体）



葉数と茎数
（県全体）

◎　中干しを続け、過剰な茎数の増加を抑える。
◎　田面の状態に注意し、大きなヒビにならないよう走り水かん水を行う。
◎　停滞水の排水や異常高温時の速やかなかん水が行えるよう、溝の手直し、タテ溝とヨコ溝の連結、水口と水尻とのつなぎを確認する。



注）幼形期は幼穂形成期の略

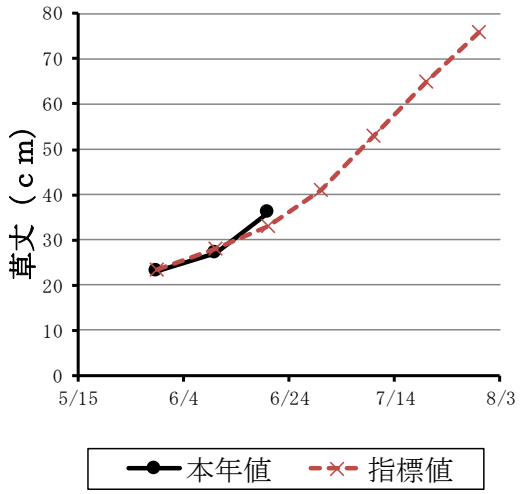
水管理のイメージ

新之助

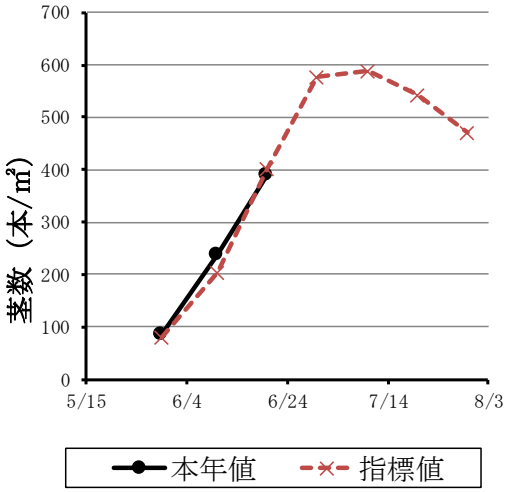
○　指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや濃い」状況です。

項目	本年値	指標値（県平均）	指標値との比較	指標値比・差
草丈	36 cm	33 cm	やや長い	109%
茎数	392 本/㎡	403 本/㎡	並	97%
葉数	8.8 葉	8.7 葉	並	±0.0 葉
葉色（SPAD 値）	40.1	38.9	やや濃い	+1.2

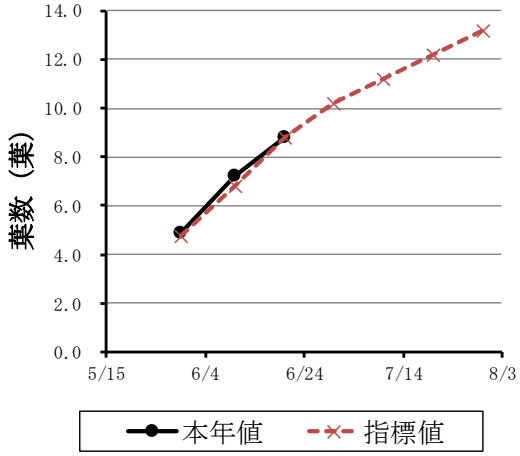
注）県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値（田植え 5 月 17 日、栽植密度 16.0 株/㎡）



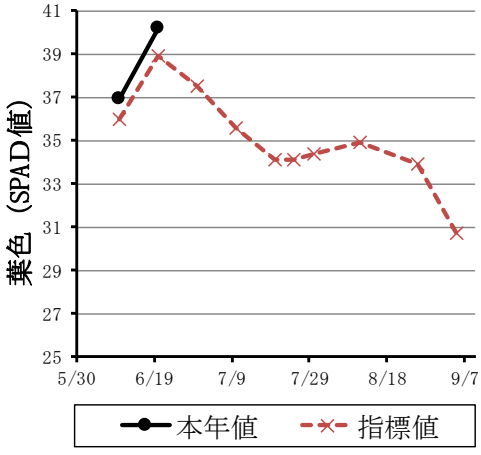
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

◎　速やかに中干しを開始する。
◎　溝切りを確実に実施する。
◎　葉いもちの発生を確認した場合は、薬剤防除を徹底する。

こしいぶき

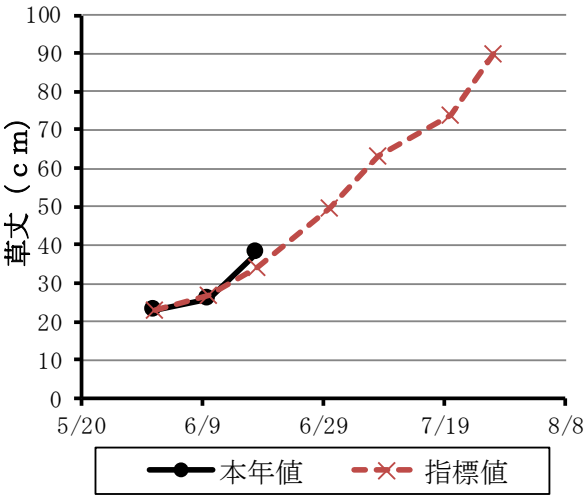
○　指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「早い」、葉色は「濃い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	38 cm	34 cm	長い	112%
茎数	545 本/㎡	500 本/㎡	やや多い	109%
葉数	9.5 葉	8.8 葉	早い	＋0.7 葉
葉色（SPAD 値）	43.2	41.0	濃い	＋2.2

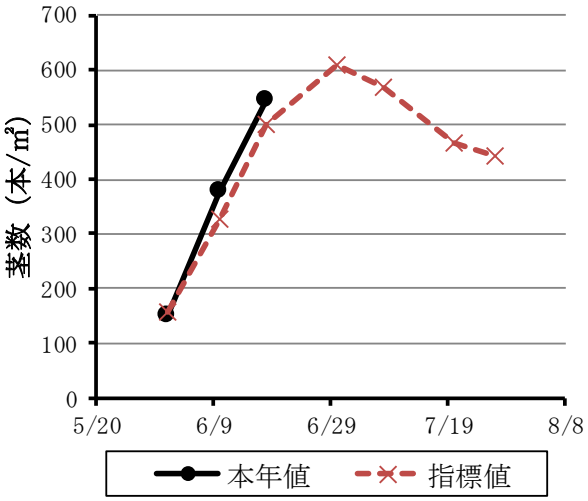
注１）化学肥料栽培　田植え５月 11 日、栽植密度は 19.8 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　3.0kg/10a

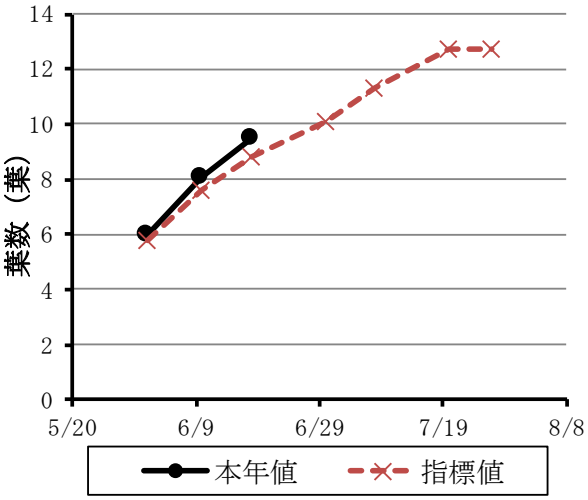
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



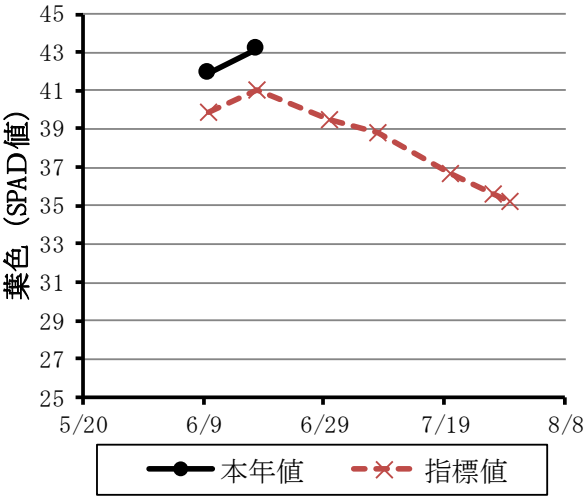
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

ゆきん子舞

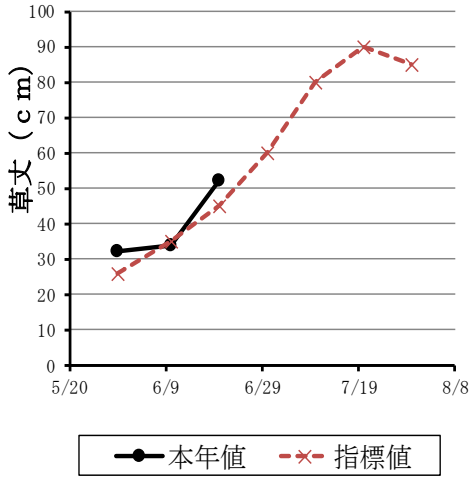
○　指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「早い」、葉色は「濃い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	52 cm	45 cm	長い	116%
茎数	563 本/㎡	580 本/㎡	並	97%
葉数	9.8 葉	9.0 葉	早い	+0.8 葉
葉色（SPAD 値）	43.0	39.5	濃い	+3.5

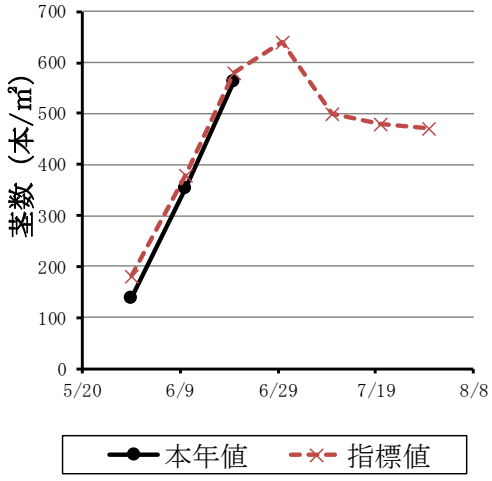
注１）化学肥料栽培　田植え５月１日、栽植密度は 18.6 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　2.8kg/10a(前作枝豆)

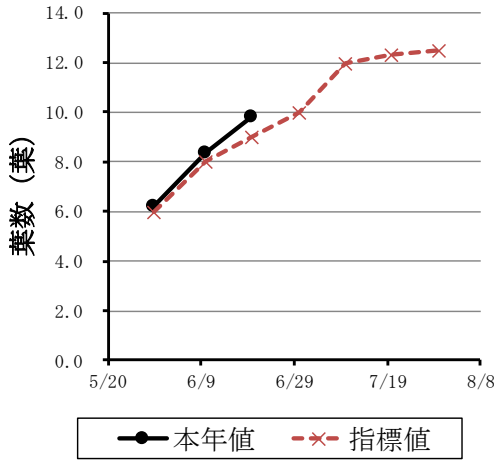
注３）長岡市高野町の生育調査ほデータ



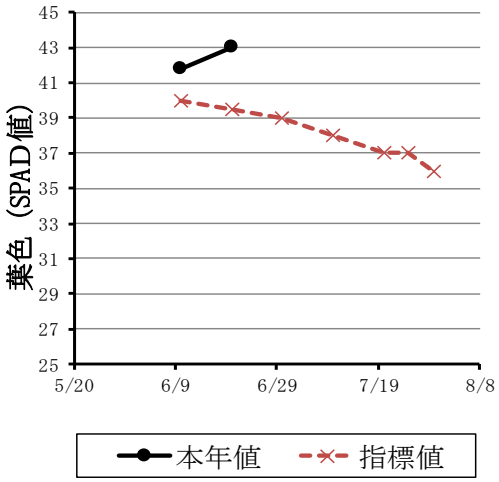
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

つきあかり

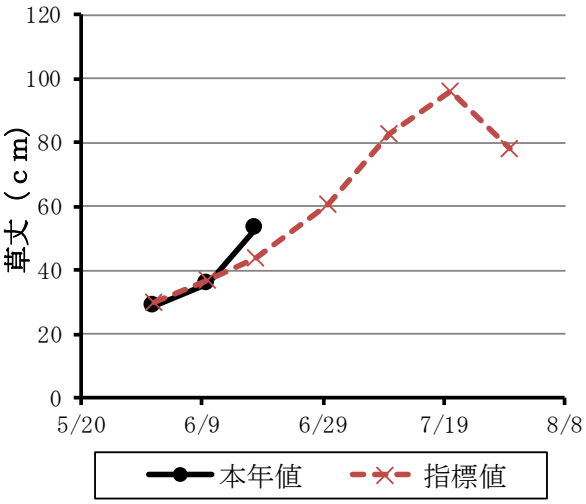
○　指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数は「多い」、葉数の進みは「早い」、葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	53 cm	44 cm	長い	120%
茎数	459 本/㎡	396 本/㎡	多い	116%
葉数	9.3 葉	8.6 葉	早い	+0.7 葉
葉色（SPAD 値）	44.5	43.6	並	+0.9

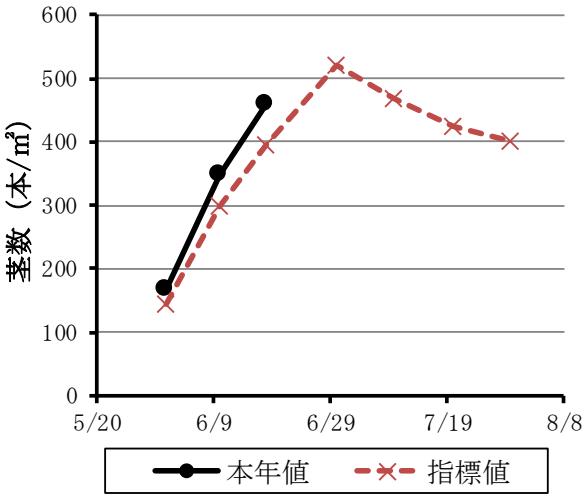
注１）化学肥料栽培　田植え５月７日、栽植密度は 21.2 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　7.0kg/10a

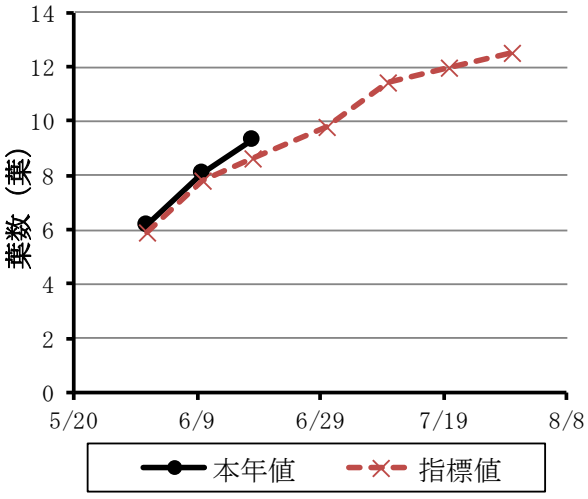
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



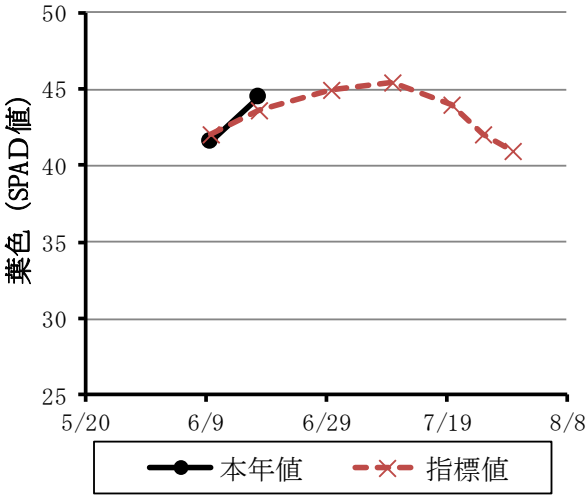
草丈の推移



茎数の推移



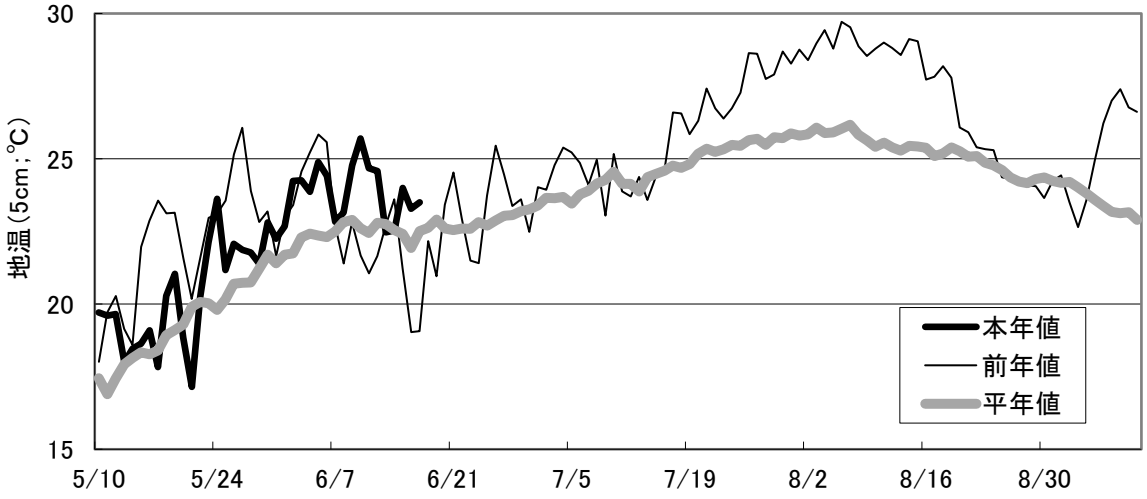
葉数の推移



葉色の推移

2　地力窒素の発現状況

○　６/10～６/17 の期間の日平均地温は平年差＋1.4℃で、この期間の地力窒素の発現量は、平年並となっています。降雨量が多く中干し後の田面の乾燥が遅れているため、条間窒素の低下は、平年よりやや緩慢に推移している状況です。



地温（５㎝）の推移

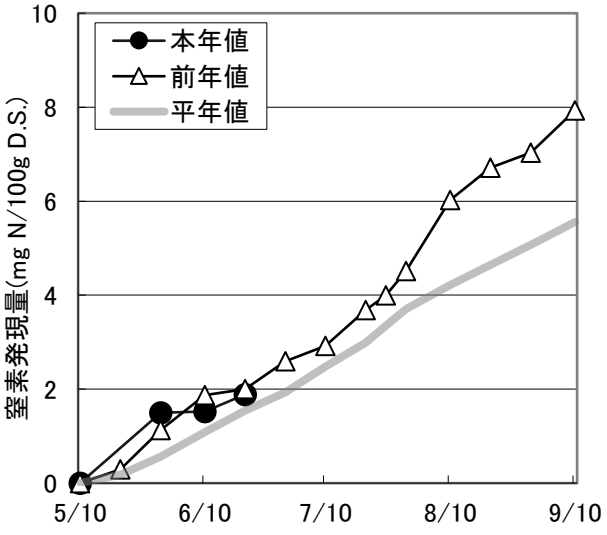
地力窒素の発現状況（農総研基盤研究部調査）　　(mgN/100g)

	６月９日①	６月 18 日②	地力窒素発現量※1 (③＝②－①)
本年値	3.6	4.0	0.4
前年値	5.5	5.6	0.1
平年値	3.4	3.9	0.5

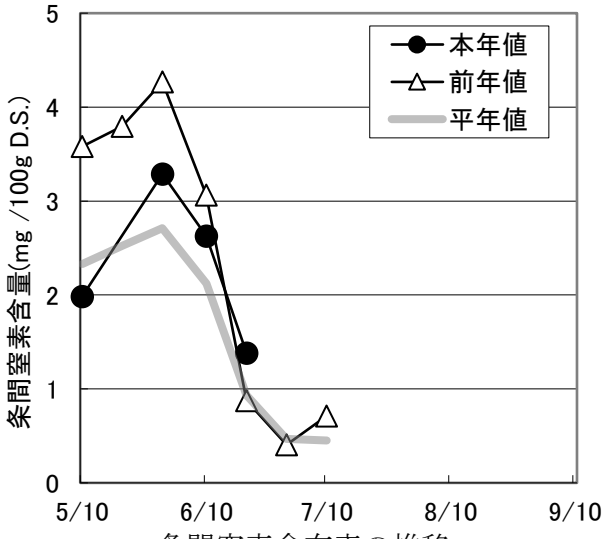
※１　小数点２ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

※２　化学肥料でＮ成分 3.5kg/10a 施用。移植日：本年５月 11 日（平年５月 10 日）。

※３　採取日は６月 18 日、地温データは採取前日までの６月 17 日まで。



地力窒素の発現推移
（初期値を０とした）



条間窒素含有率の推移